

7月14 - 18日週の債券円レビュー

July 22, 2008

信用不安巡る動きで上下

High : 213.86 円 Low : 208.01 円

Close : 213.80 円 (前週比 +2.44 円)

米金融機関の信用不安から債券は対ドルで買い、対円で売りが先行。しかし不安が徐々に和らぎ、週後半へ向け、その動きが巻き戻されるかたちとなった。

7/14 (月) 211.77 円 (前日比 +0.41 円)

PPI + 10.0% への上振れは債券買いの抑制要因となったものの、その後は一時 212.29 円まで上昇。しかし伸び悩み、211 円台を中心に推移した。

7/15 (火) 210.02 円 (前日比 -1.75 円)

米証券の信用不安の噂や英 CPI の上昇を受け債券ドルは一時 2.0155 ドルまで上昇。しかし債券円は、バーナンキ FRB 議長が議会証言で米景気減速に言及したことを受け、クロス円が大幅下落となったため、6月10日以来の 209 円割れとなった。

7/16 (水) 210.16 円 (前日比 +0.14 円)

ロンドンタイムまではリスク回避を意識した動きでクロス円が軟調。債券円は6月9日以来の安値 208.01 円まで下落した。しかし週安値となった同水準からは、米銀ウェルズ・ファースの増配発表や FRB 議長が為替介入に言及したことがクロス円の買い安心感を誘い、債券円は 210 円台を回復した。

7/17 (木) 212.94 円 (前日比 +2.78 円)

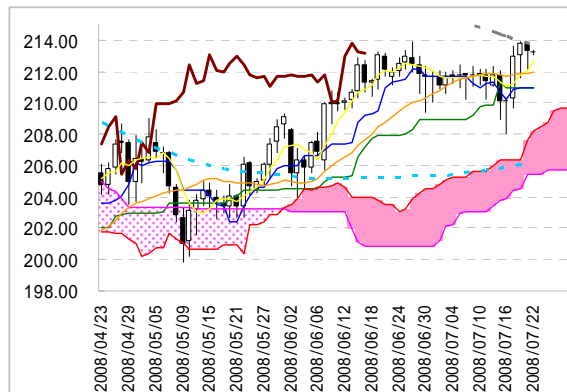
堅調な株価や原油が6月9日以来の 130 ドル割れとなったことを受けてクロス円は底堅い動きを継続。JP モルガンの決算が予想ほど悪化しなかったことも下支えとなった。債券円は 213.64 円まで急騰。6月27日以来の 213 円台回復となった。

7/18 (金) 213.80 円 (前日比 +0.86 円)

17日 NY 終盤発表のメリル決算が不調だったこと、米政府系住宅金融フレディマックが増資のため新株発行との報道が株式を中心に悪材料と受け止められクロス円の売りが先行。債券円も前日 NY タイムの急騰による上昇幅を削った。しかし米シティ・グループの決算が予想ほど悪化しなかったことや、原油が軟調に推移したことでクロス円は徐々に底堅さを取り戻し、債券円は6月26日以来の高値 213.86 円まで上昇した。

月日	High	Low
7/14 (月)	212.29 円	211.05 円
7/15 (火)	212.02 円	208.96 円
7/16 (水)	210.29 円	208.01 円
7/17 (木)	213.64 円	209.67 円
7/18 (金)	213.86 円	211.60 円

債券円の推移



テクニカル短期・中期ポイント

- 218.59 (52 週移動平均線)
- 217.01 (月足一目均衡表・転換線)
- 214.04 (1 月 25 日高値)
- 213.71 (200 日移動平均線)
- = = 先週末の NY クローズ 213.80 円 = =
- 212.43 (7 月 7 日高値)
- 210.94 (日足一目均衡表・転換線 基準線)
- 210.25 (4 ヶ月移動平均線)
- 208.20 (日足一目均衡表・雲の上限)
- 208.01 (7 月 16 日安値)

英国の重要指標結果

- 7/14 (月) [結果] (前回)
- 英 6 月生産者物価(前年比) [+10.0%] (+9.3%)
- 7/15 (火) [結果] (前回)
- 英 6 月 RICS 住宅価格 [88.0%] (92.2%)
- 英 6 月消費者物価(前年比) [+3.8%] (+3.3%)
- 英 6 月小売物価指数(前年比) [+4.6%] (+4.3%)
- 7/16 (水) [結果] (前回)
- 英 6 月失業率 [2.6%] (2.6%)
- 英 6 月失業者数 [+1 万 5500 人] (+1 万 4300 人)

アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 208.01-214.04 円

債券は他通貨との相対的な強弱も入り混ざって、インフレ指標など英経済を取り巻く材料にもうまく反応しきれない。だが、個々の指標の強弱を判断すれば、やがて外的要因の影響より、債券自体の弱材料によって下方へ動意する展開へシフトしてくるだろう。